

恐竜少年・少女の 夢をつなぐ。

アロサウルス

Allosaurus fragilis

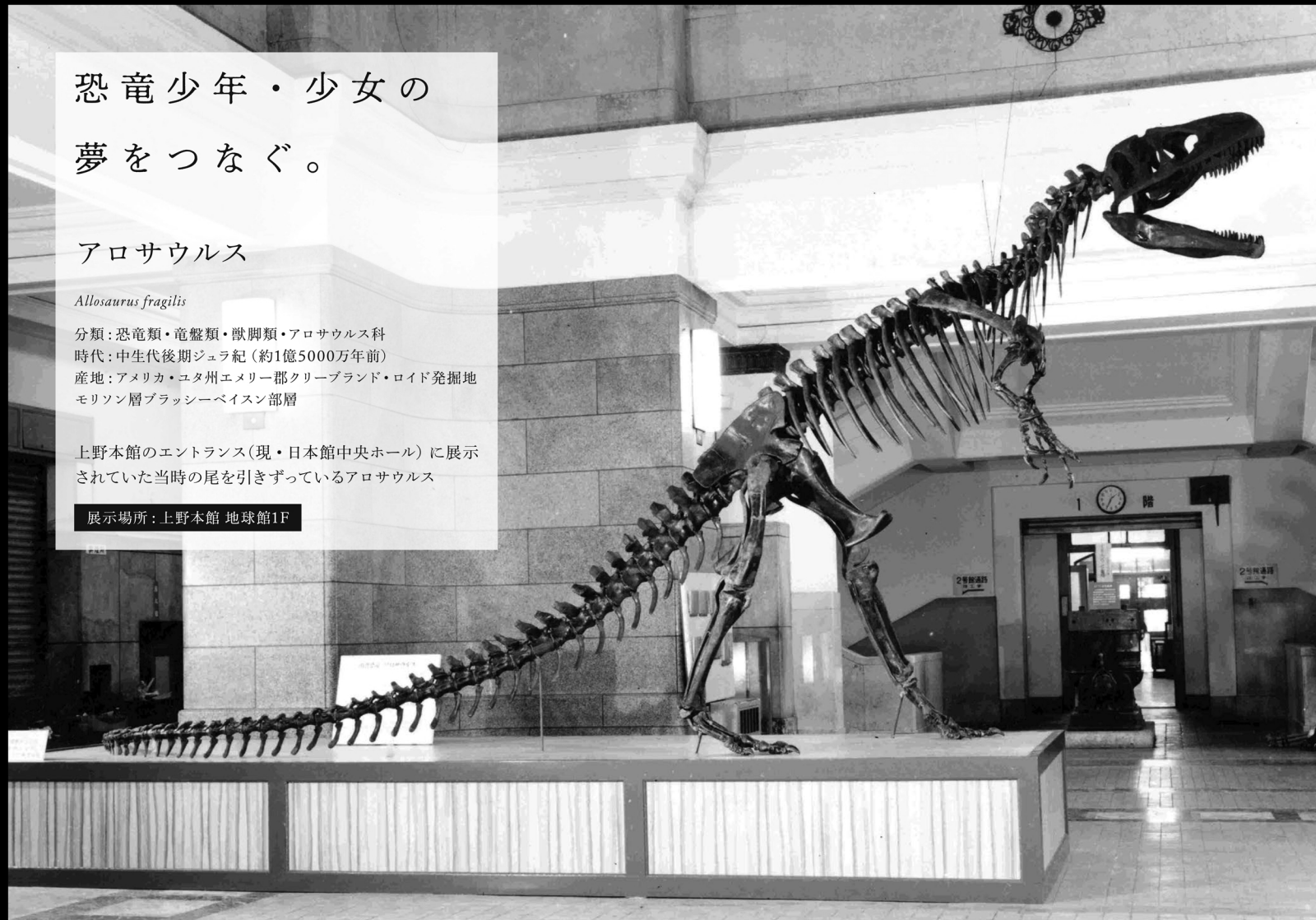
分類: 恐竜類・竜盤類・獣脚類・アロサウルス科

時代: 中生代後期ジュラ紀(約1億5000万年前)

産地: アメリカ・ユタ州エメリー郡クリーブランド・ロイド発掘地
モリソン層ブラッシーベイスン部層

上野本館のエントランス(現・日本館中央ホール)に展示
されていた当時の尾を引きずっているアロサウルス

展示場所: 上野本館 地球館1F



この肉食恐竜アロサウルスの骨格は、国内で最初に展示された実物化石を含む恐竜の全身骨格です。米国ユタ州のクリーブランド・ロイド発掘地 (CLDQ) で発掘されたもので、ユタ大学のジェームズH・マドセン・Jr.(1932～2009) が小川勇吉 (1888～1972) というアメリカ在住の日本人実業家の依頼によって、1963年に頭骨以外の大部分を実物化石で組み立てたものです。小川はこの標本を購入し、日本の子どもたちに本物の恐竜を見てほしいと、国立科学博物館に寄贈することにしたのです。このアロサウルスは、1964年から1970年まで、上野本館(現: 日本館中央ホール)のエントランスに展示され、来館者を迎えていました(図1)。2004年に常設展示を一時的に



図2 米国ユタ州立イースタン校先史時代博物館で
CLDQ産の別のアロサウルスと9歳の私

終了されるまでは
尾を引きずる姿勢
で組み立てられて
いましたが、2015
年に地球館に移さ
れてからは新しい
学説にのっとな
り、尾を地面に引

きずらない姿勢で展示されるようになりました。

CLDQの化石の大部分はアロサウルスのもので、少なくとも46個体分、1万個以上の骨化石が発見されています。私が初めてCLDQを訪れたのは、家族旅行でユタに行った9歳のときでした(図2)。そのおよそ20年後、ユタ大学の博士課程に在籍していた私は、CLDQの化石標本を教育プログラムに活用したり、CLDQの古生物学的調査を行ったりしました。米国西南部のジュラ紀恐竜に関する研究がきっかけで、日本山口県産のジュラ紀脊椎動物化石に興味をもち、博士論文で研究することになりました。その後、日本の化石の研究を続けたかったので、科博で研究者の職を追いかけてきました。科博のアロサウルスは、古生物学研究における日米の協力の歴史を垣間見せてくれる存在です。私も日米の協力のさらなる発展に向けて、お手伝いさせていただきたいと思っています。

標本資料センター

ベンジャミン・T・ブリーデン III

Benjamin T. Brecken III